

回差点

十二月と聞くと何を思うのでしょうか。私は自分の誕生日の八日と二十四日のクリスマススイブです。六十四年前の八日は真珠湾奇襲攻撃による太平洋戦争開戦の日に当たります。「お前の誕生日を忘れても開戦日は忘れない」、戦地で幾度か死線を潜ってきた

亡き父の言葉で

す。それだけ重大な日であったのです。子供のころテレビでモノクロの戦争記録を見て「戦争はイヤ!」と心底思いました。それが心のコア

になって、大人になってから自分の思考を形成してきたことは否めません。

ところで今年の十二月八日は忘れられたかのように静かに過ぎてゆきました。マスコミもNHKが「その時歴史が

12月に思う

動いた」で触れたくらいだったでしょうか。新聞一面には「耐震強度偽装」「自衛隊イラク派遣今日延長決定」、社説に平和メッセンジャーのジョン・レノンが凶弾に倒れたのが開戦日であったことくらいです。三日後、「12・8を

忘れていいか 開戦の教訓を生かそう」の論説を目にしました。「敗戦の日は大事にされるが、戦争の本質を問う観点に立つなら逆ではないか」とありました。「8・15」が戦没者追悼の意味を深くする

日なら「12・8」は国民不戦の誓いの日であってもいいのでは、と思うのは私だけでしょうか。そしてクリスマス、永井隆博士が一番大切にされた聖書のことば「如己愛人(己のごとく隣人を愛せ)」をギャラリ

ーに展示しました。「戦争の被害で最も大きいものは、人の醜さを見たことによる人間に対する信頼を失う、魂に受ける被害です」と書いています。戦争は国の名による大量殺人、いま相次ぐ女兒殺害の悲劇、その命と何ら変わりません。「もしも自分だったら」と相手の立場に立つ心の訓練と愛を教えることの大切さを思います。永井博士が書き、加藤大道が彫った「平和を」の版画とともに、不戦の誓いに合わせて「如己愛人」を思い起こす本来のクリスマススを祝いたいと思いました。(波田町、古畑博子、57歳)